

国語科の教育内容に関する研究

筑波大学教育学系講師 甲斐雄一郎

国語科には二つの教育内容がある。

現行の学習指導要綱によれば、国語科の目標は次のとおりである。

国語を正確に理解し適切に表現する能力を育てるとともに、思考力や想像力及び言語感覚を養い、国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てる。

こうした目標を達成するための教材選択の観点として、同学習指導要綱に示されているのは次の10項目である。

- (1) 国語に対する関心を高め、国語を尊重する態度を育てるのに役立つこと。
- (2) 思考力や想像力及び言語感覚を養うのに役立つこと。
- (3) 公正かつ適切に判断する能力や態度を育てるのに役立つこと。
- (4) 科学的、論理的な見方や考え方をする態度を育て、視野を広げるのに役立つこと。
- (5) 生活を明るくし、強く正しく生きる意志を育てるのに役立つこと。
- (6) 生命を尊重し、他人を思いやる心を育てるのに役立つこと。
- (7) 自然を愛し、美しいものに感動する心を育てるのに役立つこと。
- (8) 我が国の文化と伝統に対する理解と愛情を育てるのに役立つこと。
- (9) 日本人としての自覚をもって国を愛し、国家、社会の発展を願う態度を育てるのに役立つこと。
- (10) 世界の風土や文化などに理解を持ち、国際協調の精神を養うのに役立つこと。

上記の(10)を例にとるならば、「世界の風土や文化など」に理解をもつ(かりに「教育内容」と呼ぶ)ための学習活動を通して、同時に「国語を正確に理解し適切に表現する能力」を育てる(かりに「教育内容」と呼ぶ)という二つのねらいを国語科は内包しているのである。

この仕組みは国語科が教育制度上に登場した明治33年以来変わってはいない。同年以降昭和16年の国民学校令にいたるまでの国語科

を規定した小学校令施行規則中の教則で、示された国語科の「要旨」は次の通りである。

国語ハ普通ノ言語、日常須地知ノ文字及び文章ヲ知ラシメ正確ニ思想ヲ表彰スルノ能ヲ養ヒ兼テ智徳ヲ啓発スルヲ以テ要旨トス
ここでいう「智徳」はもとより、現行学習指導要領にいう「思考力、想像力」にいたるまで、その実質を規定するのは、それぞれの時代ににおける教材であったといつてよい。

教材は、戦前において明治37年以降五期にわたって刊行された国定教科書に掲載されたものがすべてであったといえる。戦後においても昭和20年代の一時期を例外として、教科書に即して授業が営まれてきた。今日においても各種の調査によれば、国語科の授業における教科書の利用率が他の教科に比べて極めて高いという実態が報告されている。すなわち戦前・戦後を通じて「教育内容」を決定した教材は、教科書教材だったのであり、それを目指した学習活動を通じてそれぞれの時代における「教育内容」の実現を同時に目指してきたのが国語科なのである。

そこで今後の国語科教育課程を構想することを目的とする本研究では、以下のような問いをたてて、調査・検討を進めていこうと考えている。

1 戦後五期にわたる国定国語教科書、また戦前各期学習指導要領に即して編まれた検定教科書における「教育内容」は何であったか。

2 それぞれの時期において目指された「教育内容」は何であったか。また戦後においてはそれらを(表現領域も含めて)どのようにして実現しようとしたか。

3 「教育内容」の変化を促す要因は何であったか。

4 その要因にてらしてみたならば、今日の国語科に要求される「教育内容」はどのようなものであるか。